

シラバスに沿った Web 版パスファインダー作成の試み

藤波みつ子、山西直子、眞喜志まり*
(首都大学東京図書館センター荒川館)
(* 現 東邦大学習志野メディアセンター)

1. 背景と目的

パスファインダーについては、愛知淑徳大学図書館のテーマ別パスファインダーや愛知医科大学医学情報センターの地域連携パスファインダーなどの事例報告が既に行われている。2007年、図書館サービスの一環として、学生に資料を有効活用してもらうことを目的に、首都大学東京図書館センター荒川館（以下、当館とする）でも導入を検討するようになった。千葉大学附属図書館が行っている授業用資料案内パスファインダー¹⁾の取り組みを知り、シラバスに沿った科目ごとのパスファインダーは、学生にとって分かりやすく、利用の必要性も感じてもらえると考えた。そこで、同サイトを参考に作成を進めているパスファインダーの取り組みについて、作成経過、課題と今後の見通しについて報告する。

2. 作成経過

科目の選択基準は、当館の利用期間の浅い学部2年生²⁾を対象に、より多くのニーズがある必修科目から順次作成するものとした。また、作成にあたってはシラバスに掲載されている授業方針や目的、授業計画・内容を参照し、教科書または参考書指定されている資料を含め、当館で所蔵している資料を紹介することとした。作成したパスファインダーは、授業を担当している教官に、内容の確認やその他資料の紹介などチェックを依頼している。その後、最終修正を行い公開の流れとなる。4月現在、看護学科、理学療法学科、作業療法学科の11コマ分を公開している。

パスファインダーURL：<http://www.hs.tmu.ac.jp/lib/literature/pf/>

3. 課題と今後の見通し

他の日常業務との同時進行のため、作業時間確保が難しい。教官にもチェックを依頼しているため、公開まで日数がかかるなどの制約はあるが、図書館員のスキルを集結し、学生の図書館利用に貢献していきたい。

1) 千葉大学附属図書館 <http://www.ll.chiba-u.ac.jp/pathfinder/> (参照 2008-03-21)

2) 荒川キャンパスでの授業は学部2年次からのため。